

二〇二二(令和四)年度
社会福祉法人 南風会 事業報告

事業報告概況
法人全体

2022年度(令和四年度)は、一言で言えばコロナ禍における法人運営であった。毎週毎週のPCR検査、抗原検査、そしてワクチン接種。行事は、コロナの感染者の量に一喜一憂しての開催や中止となり、年間通して、安定した行事の開催とはならなかった。もちろん、日常生活もコロナへの対応に追われ、かすみの里の利用者が、青梅学園の短期入所を利用する際は、毎日、抗原検査。体を拘束され、鼻に綿棒を突っ込まれなければ、利用できませんでした。手指の消毒、アクリル板、フェイスガード、もちろんマスクの着用も常時行われてきました。今までの日常がほとんど無い状態での1年となりました。行事の実施の細心の注意をし、面会もその度にご家族にも抗原検査をお願いしてきた。その中で七月八月にシャロームみなみ風、かすみの里、ケアホーム南風と相次いでクラスターに見舞われ、利用者・職員とも多くの感染者を出した。職員家族も利用者家族にも感染者を出してしまった。多方面の協力や職員の献身的な努力により、死者・重症者は出さずに乗り越えることは出来た。この間、職員に対しては、毎週のPC

検査。入所施設に外部の方(ご家族も含めて)にも抗原検査の協力を求め、面会や音楽療法などの活動の支援なども行ってもらってきた。ホテルの借上げも行い、家族からの感染を防ぎながら、勤務してもらうことも行ってきた。三月に入り、青梅学園にも急激な感染拡大が起こり、四〇名利用者中三九名の利用者が罹患するなど感染力の強さに改めて驚くとともに、職員一同の協力の下、乗り越えることが出来た。三名の高齢等のハイリスクの利用者は、入院したが、無事に退院することが出来た。シャロームみなみ風においても通所部でも同時期に感染が発生したが、感染者に休んでもらう等の対応で、入所部には感染を広げないで済ませることが出来た。このように、新型コロナウイルス感染症対応に明け暮れた1年となったが、当法人の利用者及び、職員の命を失うことなく、過ごせたことは、本当に良かったと思う。

今年度も人事考課制度の運用を行い、考課者研修も前年度に引き続き行い、前期、後期の常勤職員の考課、非常勤職員の考課を行い、職員にも各自の成長の目標を示すことが出来てきた。一方で、前述したコロナ禍で休むことを余儀なくされた職員もいて、評価が厳し

い状況となった。法人運営の中心に「経営推進会議」には、指田修理事長にも毎回参加いただき、協議を進めてきた。今年度は、事務部の刷新を図り、経験の少ない職員が多かったが、税理士法人である報徳事務所とそこに勤めていたコンサルタントにもご指導を仰ぎ、なんとか、今年度決算まで、大きな過誤を起こすことなく進んでくることが出来た。施設長は、変わらなかつたが、支援主任は、各拠点で異動等を行い、法人全体を経験してもらったようにした。

青梅学園は、新園舎の生活にも慣れた生活であったが、コロナ禍により、活動に制限のある中、1泊旅行は無くしたが、2回の日帰り旅行を実施した。また、グループでの外出もコロナの感染者が少ない時を見計らって実行したりした。納涼大会は、開催直前にかすみの里でクラスターが発生したため、中止となってしまった。しかしながら、居室棟でみんなで盆踊りを行って楽しむことが出来た。

かすみの里は、就労継続支援B型事業では、前年度に引き続き同じ作業を行った。受託作業としてベアリングの組み立てとチューブのマーク付け、組み立てを中心に行った。自主作業としてシフォンケーキ製造販売を行い、コロナ禍であったが、青梅市役所のだんだんでの販売も順調で、固定客もあり、売り上げを上げ、目標工賃をこえる工賃の支払いを可能とした。生活介護事業では、働く生活介護では、午前中は、歩行訓練

と音楽、音楽療法等を行い、午後には、作業を行うようにした。「銀のさら」のチラシの組み込みと「フジライフ」のウエスを一〇〇枚ずつ広げる仕事を中心に行い、目標の工賃は、支払うことが出来た。重度のグループは、個別な指導を充実させ、入浴を週4日行い、生活を中心に支援しました。また、ケアホーム南風との協力関係を充実し、かすみの里の利用者の短期入所利用なども続けて行えた。日向の家のバックアップは、今年度も研修の協力程度で、コロナ禍で、訪問回数も少なくなりました。

ケアホーム南風も、新型コロナウイルス感染症のクラスターが、8月にかすみの里と関係して発生し、ケアホーム内で療養する方、自宅に帰って療養する方などがおられた。ご家族の体調の問題で週末帰省が難しくなった利用者もおられた。年度途中から、体調の変化か、かすみの里へ通えなくなる利用者がでて、かならず、日中職員がケアホームにいる必要が出てしまった。短期入所は、利用促進のアピールを昨年度よりかすみの里の親御さんなどを中心に行ってきたが、その効果も現れ、新型コロナウイルス感染症のまん延等があつても、新規の利用者も増えてきた。

相談支援事業所くらしきは、青梅拠点の利用者を中心に、外部の相談者も対応してきた。

新宿拠点は、シャロームみなみ風も8年目を迎え、安定した運営

が出来るようになってきている。しかしながら、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症対応は、深刻で、スタッフ、利用者とも発熱等、感冒症状がある度に通院し、PCR検査を行い、また、ホテルの宿泊なども使い、一喜一憂をしながらも守ってきた。7月の終わり頃に入所利用者に感染が広がり、青梅拠点からも応援も送りながら、終息を待った。その後、音楽療法なども外部講師に来ていただき、楽しい活動を提供してきた。

ご家族との面会や帰省は、ご遠慮いただくこともしばしばあった。就労継続支援B型・カフェおんぶらーじゅは、縮小を余儀なくされ、週末の夜の営業も自粛した。利用者の収入が減ってしまうことを補うため、できる限り外部販売も行う減収に対応してきた。

採用は、マイナビの応援もいたしながら、法人全体としても中規模法人を目指し、毎年定期的な採用を行い、優秀な人材を採用し、育て上げ、法人の力にすることを目的にしているわけだが、新人の採用は、必要人数を確保できた。

理事会評議員会を定例的に開き2022年度（令和4年度）の事業の推進を図った。今年度は、就業規則規程の変更等を行った。又、独立行政法人医療機構へは、借入金償還金も含め、滞りなく、支払いを行った。

保健衛生関係は、日常的には、健康診断、適宜の通院や訪問歯科

等を利用して健康保持に努めてきた。新型コロナウイルス感染症対策も今年度も継続して行ってきた。また、医療機関にも協力いただき、個別の疾病等による受診や入院手術などにも対応してきた。

以上事業の概況報告とさせていただきます。

